

委託事業実施内容報告書

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：一般財団法人ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

事業名称	定住外国人の社会参加を目指した漢字学習支援—パソコン・スマホを活用して
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	平成30(2018)年12月末現在、大阪市内には139の国や地域を出身とする137,467人の外国人住民が居住し、全市民のうちの約5. 1%を占め、人口・比率とも政令指定都市の中で最多となっている(大阪市民局ダイバーシティ推進室人権企画課)。専門家による日本語教育に関しては、外国人への第二言語保障として大阪市により基礎レベルの日本語教室が開催されており、ごく初歩の日本語の知識と日常会話を学ぶことができる。しかし、文字に関しては、生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う公的な教室がない。民間の日本語学校は、生活言語が基本となっておらず、受講料も高価であるため、生活者にとって適当ではない。また、地域の日本語教室では、会話が中心の学習が行われており、漢字はあまり学習しないか、適切な指導がなされておらず漢字学習の挫折につながっている。 長年日本で生活するうちに流暢な会話能力を身に付けることは少なくないが、文字学習、特に漢字学習においては自然習得は望めないため、生活者としての外国人が、会話はできても読み書きができないという非識字の状態におかれてしまうことがかなり起きている。漢字学習をも基礎教育の一環とし、導入的な学習の機会を公的に提供することを自治体に訴え、そのためのプログラムや運営を地域日本語教育・漢字指導の専門家が提案していくことが求められる。大阪市では外国にルーツを持つ子どもが増えてきているという点から、保護者を対象とした、文字学習支援も急務である。
事業の目的	本事業は地域に根ざして生活する外国人さらに日本に定住予定の外国人に対して、地域日本語教育の専門家が漢字教育を実施することを通して、外国人がより広く、より深く社会に参加していき、社会の多様性に資することを目標とする。 日本語教育事業としては漢字教室を実施し、生活者としての外国人が漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。パソコンやスマホなどICTを使用し視覚教材を多用することで生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付け自律的に学習を継続できるよう支援を行う。 教材作成は、この漢字教室で使用するものを独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。今回はスマホで利用できる形で作成し、学習者や支援者が気軽に利用できる教材を目指す。 学習支援方法の普及としては講座(出前講座、公開講座、実地研修)及び漢字教室の公開を行い、外国人の社会参加に繋げる日本語支援の担い手を育成することを目指す。出前講座では、講座を受講する機会が少ない地域へ外向き、受講者が講座で学んだことを実践し、結果を報告する機会を作り、振り返りを行うことで、よりよい活動につなげる。各講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることにも留意する。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。これらを通し、各地域での学習支援者が日本語学習や文字学習の必要性について深く理解し、それぞれの支援のあり方を考え、共に育ち合い、ネットワークを強化する機会とする。
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	1.漢字教室 漢字学習の場として 日本人同様、外国人にとっても識字は社会参加に不可欠であるが、成人になってからの文字学習には困難が伴う。その困難を軽減し、漢字を学びやすくする学習方法を工夫し、実践し、外国人の社会参加を後押しした。「生活の漢字」学習では、身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てることで、漢字学習への動機付けを行う。2回に1回のパソコンを利用する授業では、生活場面から切り取った写真をパソコンやスマホの画面に映し出し、場面中の漢字を認識し、漢字語の意味を理解できるように練習した。そして、学習後、実生活の同様な場面で、学習した語を目にし、学習したことを役立てて課題を解決することが、学習漢字の定着と学習意欲の向上につながることを意図した。教室には、元学習者が補助者として参加し、学習者のよき理解者・指導者・ロールモデルとなった。また、学習者同士が教え学び合えるアクティブなクラス運営を行った。 日常的な社会生活において直面する場面では、文字を通して情報を得ることや、書面による意思表示を求められることが多くある。学習者のニーズに配慮しながら、保育所や学校からのお便り、病院での問診票、災害など危機管理に関するメディア情報、銀行や公的機関での書類などを取り上げ、個人として自立して社会生活が送れるように、重要な文字情報へのアクセスを可能にした。その際、それぞれの場所のシステムや必要最小限のコミュニケーションも扱った。さらに、自律的、継続的な漢字学習のために、漢字の字形や意味、漢字語の構成などの知識を学べるようにし、漢字に対する理解や興味を深めた。漢字を使用するの発信を目的とした作文は、受講者が自国の料理のレシピを書き、レシピ集を作った。 子育て支援および地域の多世代交流の場として 子育て中の外国人が参加しやすい時間帯に設定し、保育をつけることで、漢字を学習する機会を提供すると同時に社会参加の機会とした。受講者は出身国や年齢を超えて保育施設や学校についての情報交換を行っていた。また育児中の講師や、大阪市民である保育士も育児経験や地域に関する情報を生かし、参加者にサポートを行った。 2. 養成講座 コロナ禍の状況が続き、密になる恐れから、実地研修と公開講座を中止することとした。出前講座は、オンラインでの実施とし、愛媛でのオンライン漢字教室開催のための支援を行った。この講座では、漢字教室にかかわる人材の養成及び地域での理解と普及を目的とし、漢字学習支援のコンセプト、教材作成と教室での実践に関する講義を行った。愛媛での漢字教室開始後には見学を行い、フィードバックをする機会を設けた。 3. 教材作成 上記1. 漢字教室で使用する教材を作成した。一部をスマホ教材とする予定であったが、全部をスマホ教材とし、各回、学習者がスマホに教材をダウンロードして、授業で使用した。
事業の実施期間	令和2年5月30日～令和3年3月15日

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	新矢麻紀子	大阪産業大学・教授
2	新庄あいみ	元大阪大学・非常勤講師
3	服部圭子	近畿大学・教授
4	山野上隆史	とよなか国際交流協会・事務局長
5	棚田洋平	一般社団法人部落解放・人権研究所・事務局長
6	中村満寿央	一般財団法人ダイバーシティ研究所・理事
7	御子神慶子	一般財団法人海外人材育成協会・非常勤講師
8	掛橋智佳子	関西学院大学・非常勤教師
9	竹内愛実	大阪市立総合生涯学習センター・企画推進課長
10	野村京美	大阪市立総合生涯学習センター・企画担当係長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和2年5月30日 (土) 16:00～19:00	3.0時間	オンライン	新矢麻紀子、新庄あいみ、川島孝子、棚田洋平、掛橋智佳子、小野木愛、川崎百世、高詰祐子、御子神慶子	1. 新型コロナの影響による事業計画修正 ・漢字教室 開始時期、対面での実施、募集人数等について検討。コロナの再燃に備えるため、また、待機者のフォローのため、オンライン講座や配信を検討。 ・養成講座 オンラインでの実施、実地研修の中止、連続講座についての実施の可否について検討。 2. コロナ対策を徹底する。感染者や濃厚接触者が出た場合に備える。 3. 予算にコロナ関連経費追加計上 4. 継続的・安定的な教室実施のための行政への働きかけについて 5. 文化庁への問い合わせについて
2	令和2年8月11日 (月) 9:30～12:00	2.5時間	大阪市立総合生涯学習センター	竹内愛実、野村京美、服部圭子、山野上隆史、中村満寿央、川島孝子、掛橋智佳子、高詰祐子、御子神慶子	1. 事業計画概要 ・漢字教室 対面での実施、SNSでの授業配信、決定。オンラインへ移行の可能性について。募集状況について。 ・養成講座 愛媛出前講座の進捗状況。今後のスケジュール等。 2. 大阪市立総合生涯学習センターのコロナ対策について、漢字教室のコロナ対策について 3. 予算承認 4. 行政への働きかけについて協力依頼
3	令和3年3月10日 (水) 13:00～15:30	2.5時間	大阪市立総合生涯学習センター	竹内愛実、野村京美、新矢麻紀子、服部圭子、山野上隆史、掛橋智佳子、小野木愛、棚田洋平、御子神慶子	事業報告、事業評価、来年度以降の漢字教室実施について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市立総合生涯学習センターに、広報、教室の優先受付、教室への問い合わせ及び申し込みの受付など、教室の運営管理面で協力を得た。また、外国人を対象とした相談機関への仲介を依頼した。大阪市教育委員会等に対して、2021年度以降の漢字教室継続について打診した。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	事業全体：☆中村、棚田、御子神、川島、掛橋、川崎、小野木 漢字教室：☆御子神、新庄、川崎、小野木、高詰、掛橋、オーラヌット、川島 教材作成：☆御子神、新庄、川崎、小野木、掛橋、高詰 養成講座：☆棚田、御子神、川崎、小野木、高詰、掛橋 メンバー間連絡：棚田、御子神 外部との連絡：中村、棚田 会計事務：川島、小野木
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：生活者のための「生活の漢字」教室-パソコン・スマホを活用して】										
取組の目標		1. 日常生活において必要な漢字を認識できるようになること いわゆる「生活者としての外国人」は、日本語を生活の中で身に付けているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字語彙が読めるようになることを目指す。 2. 社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり対応できるようになること 役所、病院、学校などの場面で必要な書類が理解できる。住所と名前は書けるようになることを目指す。 3. 漢字学習のストラトジーを身に付けて自律して学習できるようになること 漢字学習継続のために必要な漢字に関する知識と漢字学習のスキル(パソコン・スマホの活用を含む)を身に付けることで、自律学習・継続学習を可能にする。								
内 容		「生活の漢字」学習においてはシラバスを主に生活場面で構成し、身の回りにある漢字語を学んだ。そのため、パソコンやスマホを利用して画面に生活場面を映し出し、生活場面のどこに漢字があるかを認識することから始め、学習した漢字を実際の生活の中で見つけて役立てられるようにした。子育て中の人でも参加しやすいように託児環境を整備し、保育所や学校で必要とされる漢字語や読み書きの習得をカリキュラムに加えた。 習熟レベルが一定ではない学習ニーズに対応するために、30回という長期の教室開催を目指したが、新型コロナによる開始時期延期、及び、コロナ第3波による参加者減少のため、のべ28回の実施となった。教室定員減のため、一部、2教室に分かれての授業を行ったため、各受講者にとっては全22回のコースとなった。クラスのなかで学習の遅れが見られる学習者、余裕がある学習者には補助者が対応し、継続的な参加をサポートした。大阪市立総合生涯学習センターの協力を得、同センターが主催する会話クラスの紹介を受講者中の希望者に行い、また、1名よりの生活に関わる相談についても助言を得た。								
実施期間	令和2年9月1日～令和3年3月2日				授業時間・コマ数		1回2時間 × 28回 = 56時間			
対象者	漢字を学びたいと思っている者。簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度わかる者。				参加者		総数24人 (受講者24人、指導者・支援者等7人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案で取り上げられている場面で目にする漢字語を取り上げ、文字からの情報へのアプローチを可能にする学習を行った。									
使用した教材・リソース	オリジナル教材(映写用)、オリジナル教材(スマホ用、グーグルドライブにアップロードしたものを受講者が各自のスマホにダウンロードする)、『生活の漢字』(H20年度文化庁地域日本語教育支援事業「日本語教材作成」で作成したテキスト)、『新にほんごく生活の漢字』漢字み～つけた』(アルク)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	0	0	0	1	1	8	2	0	1	0
	モンゴル(2人)、コロンビア(1名)、トルコ(1名)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和2年9月1日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室・第5研修室	20	・開講式 ・文字チェック	1. 開講式・オリエンテーション 2. Googleフォルダ・Instagram・Zoomについて 3. 文字チェック(ひらがな・かたかな・漢字)・インタビュー		川崎	川島・オーラヌット・高詒(以上補助者)・新矢・土橋・野村・中村・小野木・掛橋(以上開講式出席者)・勝田・濱(以上保育)・御子神(コーディネーター)	
2	令和2年9月8日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	12	・カタカナと漢字 ・ベーシックストローク	・漢字の中にあるカタカナを確認。パーツを意識する。 ・ベーシックストローク ・ベーシックストローク練習		川崎	川島・高詒(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)	
3	令和2年9月15日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	13	・キーボード入力 ・カレンダー	・PCで入力練習(拗音、長音、促音、撥音) ・カレンダー(月・日・曜日)の漢字と読み方 ・書き練習(数字・日～土曜日)		小野木	オーラヌット、掛橋(以上補助者) 御子神(コーディネーター) 勝田・濱(以上保育)	
4	令和2年9月29日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	9	・かいもの①	・店の漢字(花屋、酒、米、薬、肉屋) ・スーパーの漢字(青果、鮮魚、精肉、豚肉、牛肉、鶏肉、惣菜、牛乳、小麦粉、砂糖、塩) ・3割引、半額、本日限り		御子神	川島・高詒・掛橋(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)	

5	令和2年10月6日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	8	・さいがい	・災害に関連する情報と漢字(台風、大雨、暴風、強風、土砂災害、特別警報、警報、注意報、波浪、高潮、洪水、大雪、地震、震度、津波、中止、解除) ・書き練習(台風、地震、注意報)	掛橋	川島、高詰(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
6	令和2年10月6日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	7	がっこう・ようちえん①	・学校(保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学) ・年・組 ・科目(国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図工) ・給食	川崎	御子神・小野木・オーラヌット (以上補助者)
7	令和2年10月13日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	かいもの②	・期限(賞味期限・消費期限・開栓・開封・未開封・開栓前) ・保存(要冷蔵・常温保存・開封後) ・アレルギー(原材料・卵・乳・小麦・落花生・大豆・松茸・山芋) ・産地(フィリピン産・産地)	高詰	小野木、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
8	令和2年10月20日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	6	さいがい② 入門編	災害に関連する情報と漢字(台風、大雨、暴風、強風、特別警報、警報、注意報、地震、津波、中止、解除) ・書き練習(台風、強風、大雨、注意報、中止)	掛橋	御子神、小野木(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
9	令和2年10月20日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	6	がっこう・ようちえん①	・学校(保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学) ・年・組 ・科目(国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図工) ・給食・弁当	川崎	川島 高詰(以上補助者)
10	令和2年10月27日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	駅	大阪(市立総合生涯学習センター周辺の駅(JR大阪駅、JR北新地駅、Osaka Metro梅田駅、西梅田駅、東梅田駅)、受講者の利用する駅と路線、JRの路線、Osaka Metroの路線、阪急、京阪、阪神、近鉄 受講者各自の最寄りの駅と路線を書く	御子神	川島、高詰、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
11	令和2年11月10日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	15	電気製品	・日常生活で使用する電気製品にある様々な漢字がわかる。 (洗濯機、掃除機、風呂、エアコン、炊飯器、電子レンジ) ・書き練習(予約、給湯、通話、温度、保温)	高詰	掛橋、オーラヌット、川崎(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
12	令和2年11月17日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	7	ごみ①	ごみの分別 収集、収集日 普通ごみ、資源ごみ、容器包装プラスチック、古紙・衣類、粗大ごみ ・書いたことば 可燃ごみ、不燃ごみ、燃えるごみ、燃えないごみ	御子神	掛橋、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
13	令和2年11月17日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	5	お便り①	お便りの取捨選択が出来るように、手紙の種類を知る。 1)学級通信 2)学年便り 3)校報 4)●●市教育委員会 5)学校PTA 1)学級通信から必要な情報を読み取る。 (担任、持ち物、下校/登校、便り、お知らせ)	小野木	川島、高詰(以上補助者)
14	令和2年11月24日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	6	ごみ②	住んでいる地域のごみの収集曜日を検索する(大阪市、豊中市、芦屋市)。ごみの分別がわかる。 ・書いたことば 資源ごみ、粗大ごみ、家庭ごみ	御子神	高詰、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)

15	令和2年11月24日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	7	お便り②	学年便りの行事予定から10月行事を学ぶ。 (行事予定、全校朝会、耳鼻科検診、委員会、個人懇談会) 「個人懇談会のご案内」から文書様式、お便りの何処を重点的に読むか、内容理解に必要な漢字を学び、希望日時を回答できることを目標にした。書いた言葉:検診、個人、懇談会、連絡、提出、記入	小野木	川島、川崎(以上補助者)
16	令和2年12月1日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	10	病院①	病院、医院、クリニック、診療所、診療科目、診療日、休診日などを写真をみながら確認。最後にコロナウィルス関連、予防について確認。	川崎	川島、小野木(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
17	令和2年12月8日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	病院②	診察の流れに沿って、どこで何をするかを確認しながら、受付、保険証、診察券、会計、処方せん、薬局の漢字を書く。診療科目について確認。	小野木	掛橋、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
18	令和2年12月15日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	6	年賀状	正月飾りでよく見る言葉から年賀状作成へ書き練習(丑・初春・賀正・迎春・謹賀新年:初春も筆ペン使用)	高詰	掛橋、オーラヌット(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
19	令和2年12月15日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	8	住所	日本の地方、都道府県、市、区 住所の書き方(郵便番号、大阪府、大阪市、北区、兵庫県、芦屋市) 各自の住所を書く(よこがき、たてがき)	御子神	川島、川崎(以上補助者)
20	令和2年12月22日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	7	年賀状	正月飾りでよく見る言葉から年賀状作成へ書けた人は宛名書き 書き練習(丑・初春・賀正・迎春・謹賀新年:初春も筆ペン使用)	高詰	川島、掛橋(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
21	令和2年12月22日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	7	住所	日本の地方、都道府県、市、区 住所の書き方(郵便番号、大阪府、大阪市、北区、兵庫県、芦屋市) 各自の住所を書く(よこがき、たてがき) 先週作成した年賀状に住所氏名を書き入れる	御子神	オーラヌット、小野木(以上補助者)
22	令和3年1月12日 (火)10:00～12:00	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	5	申し込み	特別定額給付金の申請書の流れ・書き方 (申請書・給付金・続柄・世帯主・妻・子) 受取口座を書く・同封書類の案内	小野木	御子神、川島(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
23	令和3年1月19日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	9	銀行	よく行く銀行、通帳、口座番号、ATMの操作方法(お引き出し、お預け入れ、暗証番号、訂正、残高)など	川崎	オーラヌット、掛橋(以上補助者) 勝田・濱(以上保育)
24	令和3年1月26日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	11	仕事	アルバイト募集情報の見方 張り紙とインターネット検索の基本情報 書き練習(募集、時給、交通費支給、勤務)	掛橋	川島、高詰(以上補助者) 濱(保育)
25	令和3年2月2日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	11	料理①	レシピを書くのに必要な料理方法と料理の言葉、漢字を知る 習った漢字を使って書かれたレシピを読む	掛橋	川崎、高詰、オーラヌット(以上補助者) 御子神(コーディネーター)
26	令和3年2月9日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	7	料理②	味覚、調味料・香辛料で使用する漢字語を知る 料理①②で習った漢字を使って自分のレシピを書く 酢・甘・砂糖・塩・辛・油	高詰	掛橋、小野木、オーラヌット(以上補助者) 御子神(コーディネーター)
27	令和3年2月16日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	10	まとめ	これまで勉強した漢字を見ながら、ルールを示し整理をする 実際に書くことが必要になる場面として、「感謝のカードを書く」ための言葉や漢字を示し、実際に自分が感謝を伝えたい人にカードを書いてみる	掛橋	オーラヌット、小野木(以上補助者)

28	令和3年3月2日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	修了式	評価シート記入、アンケート記入、修了式	小野木	オーラヌット、高詰、掛橋(以上補助者) 土橋、竹内、野村、中村、川崎、川島 (以上修了式出席者) 御子神(コーディネーター) 斎藤(見学者)
----	---------------------------	---	-------------------------	----	-----	---------------------	-----	--

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第26回 令和3年2月9日】

料理をテーマにした漢字学習2回目。味覚と調味料の漢字を学習した後、前週に学習した調理や道具の漢字を使ってレシピを書く活動を行った。参加者全員が習った漢字を使ってレシピを書き上げることができた。読めるだけでなく書けることが自信に繋がり、味や代替えできる調味料などの話を指導者や他国の学習者と積極的に交わしていた。『学ぶ』そして『使う』という良い取組事例になった。



○取組事例②

【第27回 令和3年2月26日】

テーマ:まとめ

授業としては最終日だったため、全体のまとめとして既習の個々の漢字を使って、共通点や規則性を探す活動をゲーム形式で実施した。

①漢字の形(部首)の意味でまとめる

②絵から漢字を連想する

③漢字の読み方のヒント1(音読み・訓読み)

④漢字の読み方のヒント2(パーツ)

⑤漢字の組み合わせと意味

⑥同じ漢字を使う言葉

どの活動も発話も活発で、教えたり、教えられたりとお互いに助け合うにぎやかな活動となった。

最後に、漢字を実際を書く場面のひとつとしてメッセージカードを取り上げ、簡単でよく使う感謝のメッセージをいくつか紹介して漢字を使って練習した。

その後、各自家族や友人、子どもの先生などお世話になっている人に実際にお礼のカードを書いた。授業後自宅で練習を重ね、修了式に講師全員に漢字を使ってメッセージカードを書いてくれた学習者の方も複数いらしたことは、大きな喜びである。



○取組事例③

【第28回 令和3年3月2日】

漢字教室の最終回。前週が祝日だったため、2週間空いての修了式となったが、終盤の出席者ほぼ全員が顔を揃えた（1名はお子さんの学校行事のため欠席）。当日はまず、初回に行った漢字チェックと同じ内容のミニテストを行った。「閉」「火曜日」「半額」「警報」のような、学習した漢字語がわかって喜ぶ人、わからない語があつて残念がる人もいる中、多くの人が、漢字が読めるようになったこと、書けるようになったことを実感できていた。修了式では修了証書を授与し、受講者から一言ずつ話してもらったが、この教室への各人の思いが伝わり、「生活の漢字」学習を通して受講者が自信を持ち、より自立して社会参加していることを改めて知ることができた。最後の作業として参加者同士が色紙にメッセージを書き合い、次の機会での再会を約束していた。



(2) 目標の達成状況・成果

漢字教室の初回と最終回に簡単な「生活の漢字」チェックを行い、受講者がわかる漢字語があるかどうか、漢字がどのくらい書けるかを調べ、その変化を見た。配偶者数名は、チェック用紙の名前記入欄に、初回はひらがなやローマ字で書いていた姓を、最終回は漢字で書いていた。最終回のチェック参加者13名中、1名以外は認識できる漢字語が増えており、また、漢字の形がより正確に書けていた。教室スタート時に全く漢字が書けなかった受講者3名は名前や住所、曜日などいくつかの漢字を書くことができていた。チェックで成果が出せなかった1名については、生活の場面で実際に見た時は、いろいろな言葉がわかるようになったと言っており、テストのような形式に慣れていないことが背景にあると考える。

最終回には漢字教室についてのアンケートを行った。アンケート結果は、別ファイルにまとめ、添付する。今年度はコロナ禍の影響で授業回数が少なくなり、また、クラス内での受講者同士のやりとりなどの発話がかかなり制限された。そのため、アンケートでは「もっと話したかった」という声や、もっと回数を増やしてほしいという回答が見られた。新型コロナのため、公共交通機関を利用して、人が多い梅田の教室まで出て来たくない参加者が出ることを想定し、写真・動画共有SNSでの配信を行ったところ、感染者増の局面や緊急事態宣言発出直後の回では、お子さんがいらっしゃる受講者を中心に教室は欠席してSNSで視聴するケースが見られた。

アンケートと、最終回の受講者によるスピーチからは、ここでの「生活の漢字」の学習が漢字へのハードルを低くし、漢字を学びやすくすると同時に、場面の中で語として漢字を学ぶことによって、各場面やその背景にある日本の文化や制度についての理解にもつながり、受講者の生活の質の向上及び社会へのより広く深い参加へつながったと考える。

(3) 今後の改善点について

今回スマートフォンで見るための教材の作成、また教室に来られない人のためのSNSによるライブ配信を行った。スマートフォン教材はどこへでも持って行けることを評価する声が多く、今後、テーマや場面を増やしていきたい。ライブ配信については、おおむね「よかった」との評価であったが、双方向ではないこと、画面内に映せるものが限られる（スマートフォンを固定し、指導者とホワイトボードとスクリーンを映した）、指導者が移動すると声も聞き取りにくくなることなど、さらに課題がある。今後、ライブ配信時の工夫の可能性や、コロナのような事態を想定してのオンラインによる授業と対面の授業との併用の可能性を探っていきたい。

コロナ禍のための回数減や、クラス活動の制限については、コロナの状況が改善するのを待ち、受講者同士での活動や教室から外に出ていくような活動を取り入れていきたいと考える。

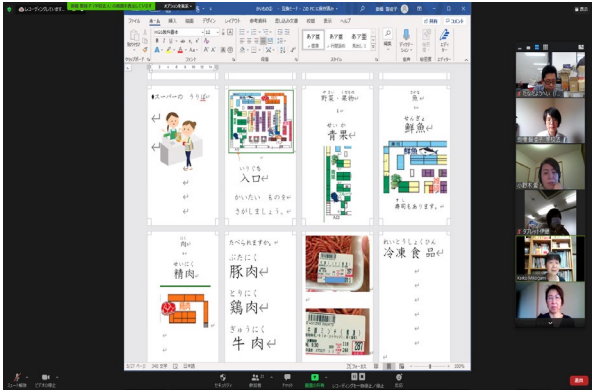
日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:生活者のための漢字学習支援者養成出前講座】										
取組の目標		当事業で実施する日本語教育(生活者のための漢字学習)プログラムの理念・実践の周知と拡充								
内 容		当事業で実施する日本語教育プログラム「生活者のための漢字学習支援」を、他地域でもひろめるために、漢字学習支援の理念や実践などについて学ぶ支援者養成講座を出前講座として実施した。 今年度は、公益財団法人愛媛県国際交流協会を受入団体として、計7回を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大状況をうけて、全7回すべてをオンライン(使用ツール:ZOOMミーティング)で開催した。 講座の内容は以下のとおりである(各講師の所属先については最下欄参照)。第1回・第2回の講座で、「生活者のための漢字学習支援」の理念と背景について共有し、第3回でその実践をレクチャーし、それをふまえて各参加者がそれぞれの教室活動で実践した振り返りを第4回で実施した。第5～7回は、「生活者のための漢字学習支援」にもとづく学習支援活動の実践を実際に取り組むにあたって、よりインテンシブに、評価・助言する講座内容とした。 【第1回】「生活者のための漢字学習支援」の理念と背景について①(2時間) 講師:御子神慶子 【第2回】「生活者のための漢字学習支援」の理念と背景について②(2時間) 講師:新矢麻紀子 【第3回】「生活者のための漢字学習支援」の実践のレクチャー(2時間) 講師:新庄あいみ 【第4回】「生活者のための漢字学習支援」の実践のレクチャーをふまえた活動実践のふりかえりと評価(2時間) 講師:掛橋智佳子・棚田洋平 【第5回】「生活者のための漢字学習支援」の実践の企画と検討(2時間) 講師:御子神慶子 【第6回】「生活者のための漢字学習支援」の実践の評価と助言①(2時間) 講師:新矢麻紀子 【第7回】「生活者のための漢字学習支援」の実践の評価と助言②(2時間) 講師:御子神慶子 講座の実施にあたっては、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告案)』(文化審議会国語分科会日本語教育小委員会、平成29年12月25日)で指摘されている、「日本語学習支援者」や「日本語教員【初任】(生活者としての外国人)」に求められる資質・能力に応じた内容・構成にしている。 なお、年度当初の事業計画時に実施を予定していた、「生活者のための日本語学習支援者養成講座(実地研修)」(計12時間)と「生活者のための日本語学習支援者養成講座(公開講座)」(計6時間)については、新型コロナウイルス感染拡大にともない、実地研修の実施が難しくなり、また、当方の運営体制ならびに講師予定者の調整が困難となったため、実施することができなかった。								
実施期間	令和2年7月～令和3年1月				授業時間・コマ数	1回2時間 × 7回 = 14時間				
対象者	地域日本語教室で実際に支援活動にあたっている者、もしくは支援活動をはじめようと考えている者				参加者	総数115人 (受講者79人、指導者・支援者等36人)				
カリキュラム案活用	カリキュラム案の「生活者の必要」「生活者の視点」というコンセプトは、本研修・講座のいずれにおいても重要な観点であるので、カリキュラム案を受講生に紹介し、参考にしてもらった。									
使用した教材・リソース	各講師によるオリジナル教材(レジュメ、資料)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										79
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和2年7月12日(日) 15:00～17:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	6	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の理念や背景について学ぶ。あわせて、受入団体が「生活者のための漢字学習支援」を導入する経緯や、本講座に求める内容についてヒアリングをおこなう。	御子神	【補助者】新庄・新矢 【参加者】小野木・掛橋・川崎・川島・高詰		
2	令和2年8月22日(土) 14:00～16:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	18	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の理念や背景について学ぶ。	新矢	【補助者】掛橋・新庄		
3	令和2年8月29日(土) 14:00～16:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	22	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の実践について学ぶ。	新庄	【補助者】小野木・御子神		
4	令和2年10月10日(土) 14:00～16:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	15	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の実践を、実際に各自の教室活動で取り入れた内容について共有し、振り返りをおこなう。	掛橋・棚田	【補助者】新矢・御子神 【参加者】小野木・川崎		
5	令和2年12月5日(土) 14:00～16:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	6	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の実践を、実際に教室活動で取り入れる際の活動・教材(案)などについて、検討・評価する。	御子神	【補助者】新庄・棚田 【参加者】小野木・新矢		
6	令和3年1月30日(土) 16:00～18:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	6	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の実践を、実際に教室活動で取り入れているようすについて見学したうえで、その活動・教材などについて、検討・評価する。	新矢	【補助者】高詰・御子神		

7	令和3年1月31日(日) 14:00～16:00	2	オンライン(使用ツール: ZOOMミーティング)	6	「生活者のための漢字学習支援」の理念と実践のレクチャー	「生活者のための漢字学習支援」の実践を、実際に教室活動で取り入れている内容を共有したうえで、その活動・教材などについて、検討・評価する。	御子神	【補助者】川崎・新矢 【参加者】掛橋・川島・新庄・棚田
---	-----------------------------	---	--------------------------	---	-----------------------------	--	-----	--------------------------------

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

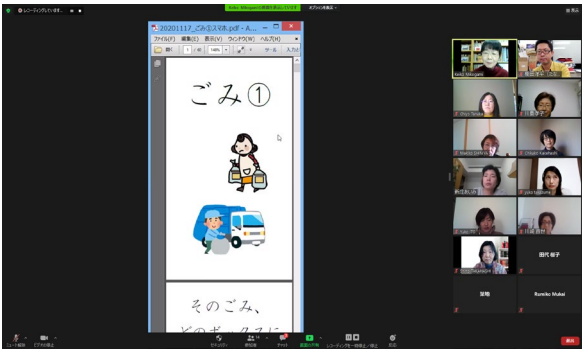
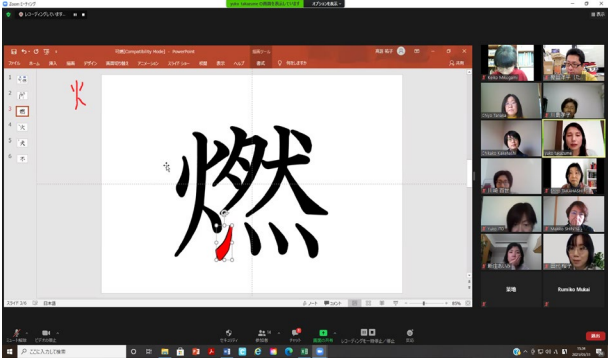
○取組事例①

【第4回 令和2年10月10日(土)14:00～16:00 オンライン実施(使用ツール:ZOOMミーティング)】
 第1回～3回の講座で学んだ、「生活者のための漢字学習支援」の理念や背景、実践のレクチャーをふまえて、各参加者がかかわっている地域日本語支援活動の現場で、実際に漢字学習の取り組みを試行してみることを、第3回の講座終了時に「課題」として提示した。第4回では、その課題にもとづいて、それぞれの活動で漢字学習を取り入れてみての感想や疑問などについて、まず参加者間どうしてグループにわかれて報告し合い、その後に全体で共有した。その際に、講師担当者より、それぞれの実践の評価をしたり、参加者の疑問に答えていった。あわせて、今般の新型コロナ禍の状況のなか、地域日本語教室活動をどのように進めていけばよいのかを考えるにあたって、オンライン学習の可能性と課題について、参加者間でそれぞれの経験をもとに話し合った。そのうえで、今回の講座内容をふまえつつ、あらためて第1回～3回の内容について振り返った。講座で学んだこと(「生活の漢字」学習支援活動)を、実際に体験(自身がかかわっている地域日本語教室活動での試行)することをおして、さらにその経験を他者と共有し、振り返ることで、講座内容の習得がより促されたと言える。



○取組事例②

【第7回 令和3年1月31日(日)14:00～16:00 オンライン実施(使用ツール:ZOOMミーティング)】
 第5回～7回の講座については、「生活者のための漢字学習支援」出前講座の受入団体である、公益財団法人愛媛県国際交流協会が、2021年1月より新規に事業実施する「外国人のための生活の漢字教室(愛媛)」の開催にあたって、その講師予定者を対象としたより実践的な内容とした。第5回については、教室活動の全体の構成ならびに、各回の指導案や教材について、レクチャーをまじえながら検討していった。第6回では、実際の教室活動(オンライン実施)のようすを、当方の講師担当者が見学した。第7回は、「外国人のための生活の漢字教室(愛媛)」の担当講師の振り返りと課題を共有したうえで、第6回の教室活動の見学内容もあわせて、当方の講師担当者より、担当講師の疑問に答えつつ、「生活の漢字」実践に対する評価と助言をおこなった。あわせて、「生活の漢字」実践にかかわる活動や教材の具体的事例について、その活用方法を提示する形で紹介した。実際の教室活動における「生活の漢字」実践と並行しながら、その評価と反省を軸に各回の講座内容を企画したため、実践に対する講座参加者の理解はより深まったと言える。



(2) 目標の達成状況・成果

各回の講座終了後にアンケートを実施し、受講者の講座内容に対する評価や理解度、今後の日本語支援活動への影響について把握することに努めた。アンケート結果を見る限りでは、各回の講座内容に対する評価、理解度はおしなべて肯定的な意見が多く、本講座の目的・目標を達成できたと思われる。また、今年度は、1つの受入団体を対象として、当該団体において「生活者のための漢字学習支援」活動を展開していくのと並行する形で、養成講座を複数回にわたって実施することができたため、その都度に課題を把握することができ、的確な評価と助言をおこなえた。

(3) 今後の改善点について

今年度については、新型コロナ禍という状況下のなか、養成講座については、「生活者のための漢字学習支援」出前講座のみを、受入団体1つにしぼって、オンライン(使用ツール:ZOOMミーティング)で実施するというイレギュラーな対応となった。一方で、受入団体による「漢字教室」の立ち上げ準備に伴走する形で、2020年7月～2021年1月までの期間、全7回にわたって実施することをおして、講座参加者にとっては、「生活者のための漢字学習支援」の実践内容を経験的に掘り下げて学ぶことができたと言える。また、当方としても、長期間にわたるかわり、ならびに点検・評価を繰り返すことで、実際の地域日本語教室活動において、「生活者のための漢字学習支援」を位置づけるための諸課題がみえてきた。養成講座で学んだことが、講座参加者の実際の日本語学習支援活動につながるためには、こうしたフォローアップの作業が不可欠であり、そのことをふまえて養成講座の内容・構成を検討する必要がある。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：生活の場面から文字を学ぶための漢字教材】			
取組の目標	生活に必要な情報を文字から得られるようになる。漢字学習に興味を持ち、学習を継続する。漢字に関する知識、日本語に関する知識、日本の生活に関する知識を増やす。自律的に学び、学習を継続できる。		
内 容	1. 受講者がスマホにダウンロードして毎日の生活で持ち歩き、いつでも見られるように、スマホ画面で見えることを前提にした教材を作成した。教室においても、受講者は手元にこの教材を持ち、スマホも見ながら、授業を受けた。指導者は授業用に教材をホワイトボードに投影しながら授業を進めた。受講者がその日欠席しても教材をダウンロードできるというメリットもあった。 2. 教材作成時には「生活の漢字」のコンセプトである以下の点に留意した。 ・写真などで文字・漢字がある場面を認識し、場面中の漢字を学習する。 ・お便りなどでは、必要な情報がどこにあるかを学び、情報を得るために最低限必要な漢字を学習する。 ・カタカナが漢字字形認識の助けとなることを知ってもらえるように、オリエンテーションで、漢字の中にあるカタカナを認識する練習をする。 ・漢字に関しては、字形の認識、音のパーツ、意味のパーツ(部首)、漢字語の構成など、体系化のための学習部分も挟む。 ・自分の名前や家族の名前、住所等、最寄りの駅や路線、ごみの収集日など、学習者が個別に必要な情報を学ぶ助けとなる。		
実施期間	令和2年8月23日～令和3年3月15日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30回 = 60時間
対象者	日本で生活している外国人 日本語で簡単な会話ができ、読み書きを学びたい在住外国人	教材の頁数	744ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案で取り上げられている場面には、漢字が認識できれば自立した社会参加が可能になり、さらなる生活の質の向上につながる状況が多く見られる。そのため、各場面で目にする漢字語を取り上げ、文字からの情報へのアプローチを可能にする学習を行うための教材を作り、カリキュラム案が参照できるように、標準カリキュラムとの対照表を付した。		
事業終了後の教材活用	文化庁NEWSへの掲載により漢字学習支援方法とそのための教材を探している支援者が利用できるようにする。養成講座では、受講者が所属している教室や活動場所での活動に利用可能な教材として紹介し、文化庁NEWSへの掲載を予告した。		
成果物のリンク先	文化庁NEWS		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業は地域に根ざして生活する外国人さらに日本に定住予定の外国人に対して、地域日本語教育の専門家が漢字教育を実施することを通して、外国人がより広く、より深く社会に参加していき、社会の多様性に資することを目標とする。

日本語教育としては漢字教室を実施し、生活者としての外国人が漢字について知識を得、必要な漢字が理解できるようになることを目指す。パソコンやスマホなどICTを使用し、視覚教材を多用することで、生活場面で目にする漢字語から漢字を学び、語にまつわる情報を得たり、文化的背景を理解したりしながら、文字学習の方策を身に付け、自律的に学習を継続できるよう支援を行う。

教材作成は、この漢字教室で使用するものを独自に作成し、文化庁NEWSで公開して、各地からの利用を可能にする。教材はスマホで利用できる形で作成し、学習者や支援者が気軽に利用できることを目指す。

学習支援方法の普及としては、講座及び漢字教室の公開を行い、外国人の社会参加に繋げる日本語支援の担い手を育成することを目指す。講座においては、漢字学習支援のスキルを学ぶにとどまらず、地域日本語教室を担うボランティアとしての姿勢を身に付けることにも留意する。さらに、漢字教室を見学者に公開することで、生活者のための漢字学習支援方法の普及を目指す。これらを通し、各地域での学習支援者が日本語学習や文字学習の必要性について深く理解し、それぞれの支援のあり方を考え、共に育ち合い、ネットワークを強化する機会とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「外国人がより広く、より深く社会に参加していき、社会の多様性に資すること」は本事業の3つの取組に共通した目的であるが、取組①の漢字教室では、受講者は教室での学習を通して、日常生活において自立してできることがらが増え、世界が広がり、それが自信につながっていることがコース終了時のアンケート及び漢字教室修了式でのスピーチからうかがえた。そうした文字学習支援ができる人材を養成することを目標として、取組②では3つの養成講座を計画したが、コロナ禍のため、二つを中止せざるを得なかった。出前講座はオンラインでの講座として実施し、生活者としての外国人の漢字学習支援方法を広め、また愛媛での同様な「生活の漢字教室」開催を援助した。取組③の教材作成は、教室での授業でも各自のスマホを活用することとし、全テーマについてスマホ用教材を作成した。グーグルドライブからダウンロードできる仕組みにすることで、コロナ禍の状況にあって、子どもを連れて来ることへの不安があったり、あるいは体調が悪いのに無理に教室に来ることのないように配慮した。アンケート結果からは、スマホ教材を全員が高く評価していた。どこでも持って行くことができる、その場で必要な漢字を調べたり、暇な時間に見たりできる、とのコメントを得た。生活者の場合、毎日の生活でまとまった学習時間がとれないことがままあることから、そうした外国人生活者のニーズに合った教材が開発できたと言えよう。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

標準的なカリキュラム案にのっとり「つながるひろがる にほんごでのくらし」では、取り上げられている様々な場面で会話による課題解決が目指されているが、文字から情報を得ることができないという設定での会話が多い。長く日本で暮らすことを考えると、やはり文字から情報が得られることが便利、有利であり、自立的な社会参加を可能にする。そのため、「つながるひろがる にほんごでのくらし」と共通する場面・テーマを選び、その場面で遭遇する漢字語を学習した。

今後、引き続き、「つながるひろがる にほんごでのくらし」と併用できる、「漢字」切り口の「生活の漢字」教材を充実させたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

大阪市立総合生涯学習センターより、広報、申し込み受付、教室の確保等、幅広い面で協力を得た。

文化庁のプログラムによる当漢字教室は今年度で3年目を迎えるため、今後の漢字教室の設置について、かねてより大阪市教育委員会に訴えていたが、今年度、コロナ禍で地域の日本語教室が休止している中、市の地域日本語教育の総合的な体制づくりも進まず、市による漢字教室の継続は断念する結果となった。ただ、市教育委員会からの要請で当事業中核メンバー2名が市の体制づくりにコーディネーターとして参加しており、来年度も引き続き1名が加わることになるので、漢字教育の意義と必要性を伝え続けたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

漢字教室の周知・広報はチラシとインターネットで行った。チラシは大阪市内の識字・日本語教室と近隣市の国際交流センターに郵送したが、コロナ禍で活動が休止しており、なかなか対象の外国人に届かなかった。協力先の大阪市立総合生涯学習センターと、同センターを通じて、阿倍野市民学習センター・難波市民学習センターにはチラシの配架を依頼した。インターネットでは、ダイバーシティ研究所・大阪市立総合生涯学習センターのホームページで広報した。また、タイ人補助者からはタイ人のネットワークにも広報を行った。

愛媛県国際交流協会がオンラインによる「生活の漢字教室」を開催するに当たって、指導者・支援者養成のための講座をオンラインで実施して、愛媛への「生活の漢字」の普及を目指した。

(6) 改善点、今後の課題について

教室の常時設置を訴えて、数年来、大阪市教育委員会への働きかけを続けているが、令和2年度はコロナ禍によって活動が制限されたため、思うように交渉の機会が得られず、継続的な教室の実施は引き続き課題となっている。

来年度以降、漢字教室が実施できることとなれば、今年度までの受講者に補助者としての参加を打診し、同国者のサポートを担ってもらうことを考えた。すでに1名、元学習者であるタイ母語話者が補助者として加わっているが、今年度コロナ禍の状況での広報の際、タイ人間のネットワークを通してタイ語話者の参加を得られた。また、日本語会話がまだ不十分なタイの受講者も、母語のサポートがあるため授業についてくることができ、全員が途中でやめることなく、最後まで参加した。外国人が補助者として運営に参加し、役割を担うことは、また、学習者から補助者へと役割を変えていく自己変革にもつながり、外国人の多様な参加の形を広げるものでもある。

今年度は、オンライン教材の使用や、授業の配信などを行い、ITを利用した新たな事業展開が見えてきたが、公共施設におけるWifi環境整備の遅れはハードルになっている。今年度はモバイルWifiのレンタルで対応したが、費用負担は軽くないので今後の課題である

養成講座は、コロナ禍のためオンラインでの実施となったが、オンラインは遠隔地をつないでの講座実施を可能とするものであり、「生活の漢字」の普及のための学習支援者養成講座について、引き続きオンラインでの実施も視野に入ってきた。実地での研修や見学が最も理解につながるという面は否めないため、コロナ禍の状況が改善されれば、組み合わせての実施を考えたい。

(7) その他参考資料

- 1. 漢字教室チラシ
- 2. 養成講座チラシ
- 3. アンケート集計(漢字教室)